

## 福島からのメッセージ

織田千代さん（福島県いわき市、「これ以上海を汚すな!市民会議」 共同代表）

広島の皆様こんにちは

私は福島県のいわき市という太平洋を望む土地で暮らしています。福島海は、黒潮と親潮が交わる潮目の海とも言われカツオ、カレイ、メヒカリなど、その魚種も豊富で海の幸に大変恵まれたところです。人々はそんな場所に暮らす事に喜びと誇りを持って生きてきました。

しかし2011年3月、原発事故が起こり、その暮らしは一変してしまいました。

漁業は試験操業のみとされ、漁獲高は以前の1割程となっしまい、関連する業種や商店などが閉業してしまう程大変な状況でした。それでも放射線検査をしたり、国や東電と交渉したり、さまざまな努力をして、少しずつ本格的な操業に戻ろうとしていた2021年4月13日、汚染水の海洋放出の政府決定がありました。

地元の漁業者だけではなく全漁連からも農林業の方からも、福島県自治体の7割以上からも反対、慎重な判断をの聲が上がり、1年間で45万筆を超える市民の反対署名がたくさん上がる、そんな中での突然の決定でした。

それは、原発事故直後から人々の命や健康を守るために続いてきた、本当にさまざまな苦勞、暮らしをなんとか支えようとしてきた多くの人々の思いを打ちのめし、踏み躪るような決定でした。

国と東電は、流そうとしている水は多核種除去装置ALPSでは取りきれない、トリチウムなどを含む水としています。しかしそれは一度流してしまったら取り返しがつかないものであり、その中にどのようなものが含まれ、どれだけの量がいつまで流され、どんな風に広がって流れるのかもわからない、どんな影響が出るのかわからないままの水です。

トリチウムは基準値以下であれば問題がない、世界中の原発から流されていると言われています。しかし、そこでは福島第一原発から流れ出る水が、高線量の放射線を放つデブリに触れた水である、事故由来の汚染水であることは詳しく説明されません。

国や東電から出されている情報は、決して透明では無いのです。

海洋放出の理由として、処理水の保管タンクの用地に余裕がないことが上げられていますが、それを確保する工夫や提案、原発敷地内で増え続ける汚染水の止水工事などについての提案、トリチウムの分離技術の提案など、専門の技術者、科学者からも出されているのですが、それらを受け入れていく、という回答はなぜか聞かれていません。

太平洋諸国や、近隣の国々からも、海洋放出に反対する声は届いているはずですが、それらが新聞やニュースなどで大きく報道されることはありません。

そればかりか、私たちが汚染水を海に流すな！という風に声を上げる時に、流す予定の水は処理水なのだから、汚染水という言葉を使ってまわりに宣伝しないで、という指示まで出されました。

原発事故後11年目を迎えようとする現在、その事故の影響についての詳しい情報は、日に日に減らされつつあると感じます。福島県では、事故当時18歳以下だった人の中に小児甲状腺がんと診断された方が300人近くにも上りました。事故前には、100万人に1人か2人とされたものです。先日、実際に患者となった若者のうち6名が、勇気を出して訴訟を起こし、その深刻な苦しみを語っていました。

そんな現状の中で甲状腺検査の縮小が言われたり、子どもたちの教育の場では海洋に流されるトリチウムは安全とする副読本の配布が行われるなど、私たち市民の思いを逆撫でするような、政策が行われています。

原発事故の後、もうこんなに多くの人々を苦しめる原発は、日本からも世界からもなくなるだろうと私は本気で考えていました。事故を経験した大人が、心をつにして、努力することが大人の責任だと思って来ました。しかし今、そんな思いと逆行する政策がどんどん進められているようです。放射能への恐れ、とは別にこの政府と東電への不信感が、わたしたちを苦しめていると感じます。

あの事故の混乱の中、聞こえてきたのは、子どもたちにヨウ素剤を飲ませたほうが良いの？ 私の母乳を赤ちゃんに与えても大丈夫でしょうか、という母親たちの言葉でした。事故前は、近くに原発があることすら知らなかった、放射能について詳しい知識もなかった、ベクレルもシーベルトも聞いたことのない人々です。

あれから、11年も経とうとしていますが、どんなことが起きても日々の暮らしは続き、日常を守る努力は必要になるという事をつくづく思います。

海の景色は、事故前と変わらず、ゆったりと私たちのそばにあります。そして今も、いつも通り親たちは子どもを安全に守り育てたいと願い、人々は少しでも健康に、無事に日常を暮らしたいと考えて生きています。それは、世界中どの場所にいる人たちにも共通の思いだと思います。

お聞きの皆さんが、今安心して平和に暮らされているのであれば、それは何より嬉しい事です。それでも、災害や戦争や、思いもかけないことが起きることを、心の隅に置いて暮らす事を是非お願いしたいのです。

私たちは、地震がきたら、すぐに津波は大丈夫か、そして原発は無事だろうか、と頭に浮かびます、それは、本当に悲しい事なのです。

どうぞ、この後の未来が、無事に平和でありますよう、心から祈りながらこのメッセージを送ります。